

令和5年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業

実態調査研究報告書

(1年目)

福島県伊達市梁川町栗野地区の地域活性化策について

公立大学法人 宮城大学 伊達ななかまたち

令和6年2月

## 目次

1. はじめに
2. 栗野地区の概要
3. 活動スケジュール
4. まちづくりアンケート調査
5. 活性化のシナリオ
6. おわりに

## 1. はじめに

私たち、宮城大学 伊達ななかまたち は、宮城大学事業構想学群地域創生学類の青木ゼミ（地域企業研究室）に所属する3年次生8名（代表：稲葉公成，新森美和子，構成員：芦南海，菅原崇文，高久明日香，土屋百勢， 箭子優羽，横倉光）で構成されている。また、福島大学の2年次生1名（松本直）も活動を共にした。本事業の実施にあたり、栗野地区交流館，栗野地区自治会，栗野地区町内会，栗野小学校の方々に多大なご協力を賜った。地域行事への我々の参加を快く受け入れてくださり，複数回の訪問を通して良好な関係を構築することができた。また，様々な場面で住民の皆様の地域に対する愛着や思いをお伺いすることができた。栗野地区の誇りである農業や美しい景観を次の世代につなげていくために，我々に何ができるかを1年目の活動を通じて模索してきた。

本報告書は，活動を通して明らかとなったことと，地域を次世代に繋いでいくための提案を記述する。

## 2. 栗野地区の概要

栗野地区は，福島県伊達市の北西部に位置している。東に広瀬川，西に阿武隈川が流れ，山一つない平坦な地形から，農地として優良な土地を有している。また，自治組織独自でスポーツや婚活事業など，様々な活動を行っている地域である。伊達桑折 IC から車で15分，梁川町内には阿武隈急行梁川駅があり，比較的アクセスのよい場所に位置している。

地理情報などは以下のとおりである。

【土地面積】	5.52k m <sup>2</sup>
【人口】	1,876 人
【世帯数】	663 世帯
【高齢化率】	43.8%



また、事業にあたり集落側がとらえていた集落の現状と課題は以下のとおりである。

- ・栗野地域の人口減少
- ・農業従事者の後継者不足
- ・未婚者増加
- ・空き家の増加，空き家対策
- ・小学校の存続などが心配される状態

### 3. 活動スケジュール

令和5年度に行った活動は以下のとおりである。

8月22日 顔合わせ

9月24日 体育祭参加

11月11日 3世代ふれあい事業参加

12月1日～1月12日 まちづくりアンケート実施

1月14日 栗野地区新年会参加

1月27日 子育て世代への聞き取り調査

2月2日 地域住民への中間報告会

2月17日 全体報告会

2月29日 総括・今後の打ち合わせ

体育祭や3世代ふれあい事業などは、参与観察という形で参加させていただいた。当初持っていた我々のイメージとしては、「高齢化が進み自主活動もままならないのではないか」、「地域の元気が失われているのではないか」、「大学生の活動が受け入れられないのではないか」というものがあった。しかし実際は、自治組織が主体となった活動は活発に取り組み、住民の皆様は老若男女問わず元気で活き活きとしていた。また、我々の活動に対しても理解を示していただき、地域

活動への参加やアンケート実施に際しては快く受け入れてくださった。参与観察を通して、地域の活動の取り組み状況の雰囲気を感じることができた。

子育て世代への聞き取り調査は、小学生の子を持つ保護者の方から、栗野の住みやすさや子育てのしやすさをお伺いした。

感じたこととしては、地域の行事に対して世代間で感じ方、負担感の違いがあること、子供の遊び場がないこと、次世代の地域のリーダーが育つ場がないことなどが挙げられる。これらの内容を踏まえて、2年目に向けて提案することが必要となる。



## 4. まちづくりアンケート

### [1] 調査の概要

#### 調査の目的と方法

伊達市梁川町栗野地区のまちづくりや地域福祉に対する意識や課題を把握し、今後栗野地区交流館を核にした地域づくりの方向性を検討するために、地区内全戸を対象として悉皆調査を実施した。

なお調査対象者、調査期間、調査方法等は以下のとおりである。

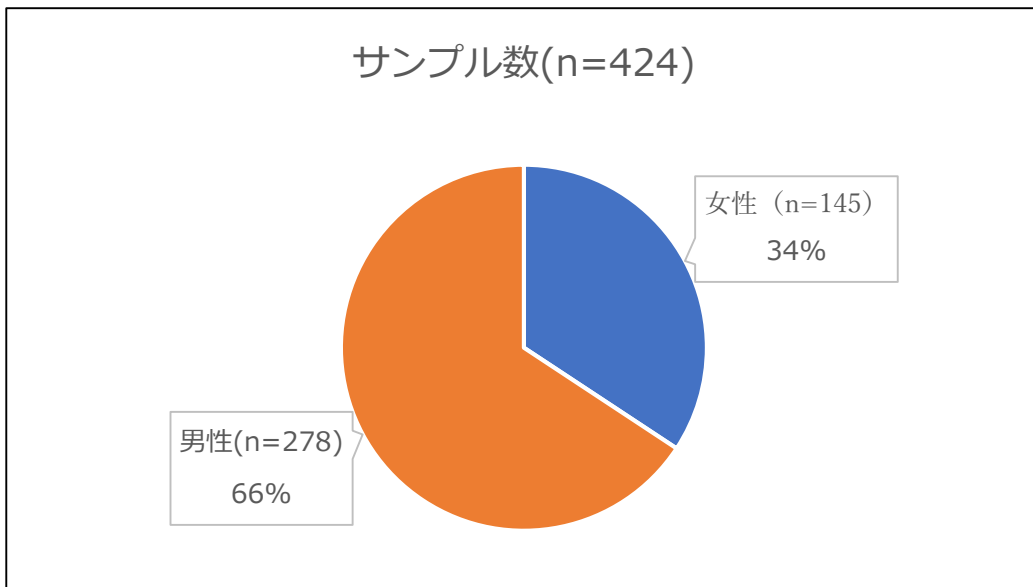
- ① 調査の名称 栗野地区まちづくりアンケート調査
- ② 調査主体 青木孝弘准教授の指導のもと、代表者である稲葉公成と新森美和子が調査票の設計を行い、宮城大学学生 8 名がデータの入力と分析に参加した。また、調査の方法、内容について栗野地区交流館の助言、協力を頂いた。
- ③ 調査対象者 栗野地区に在住する全 663 世帯を対象として、世帯の中で誕生日が 1 月に近い人に回答いただく。  
有効回答数 459 件
- ④ 調査時期 令和 5 年 12 月 1 日～令和 6 年 1 月 12 日
- ⑤ 調査方法 留置調査法、インターネット調査  
(組長さんが調査票を配布し、後日回収)
- ⑥ 調査項目
  - (1)回答者の概要
  - (2)地域生活の満足度・重要度
  - (3)安心な暮らし
  - (4)地域づくり

[2] 調査の結果

(1)回答者の概要

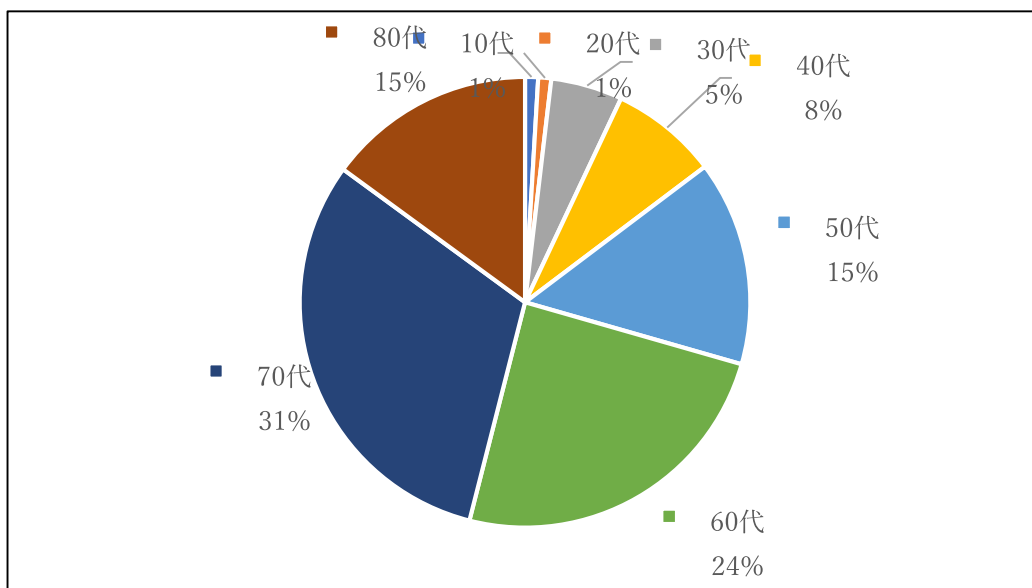
1-1 性別

有効回答は、男性が 278 人、女性が 145 人の 計 423 人



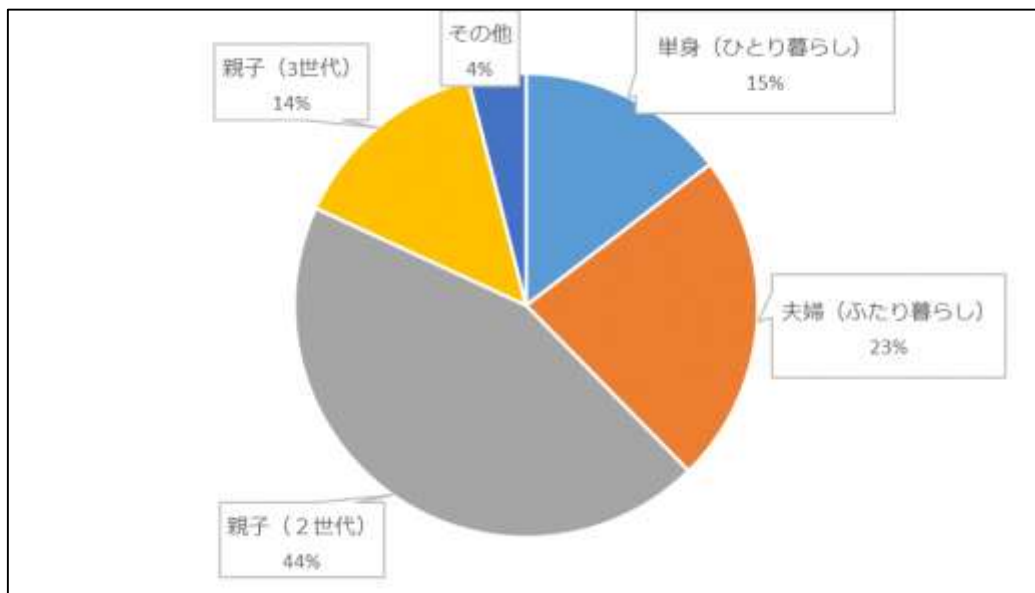
1-2 年齢

70代が全体の31%を締め、60代以上で回答の70%を占める



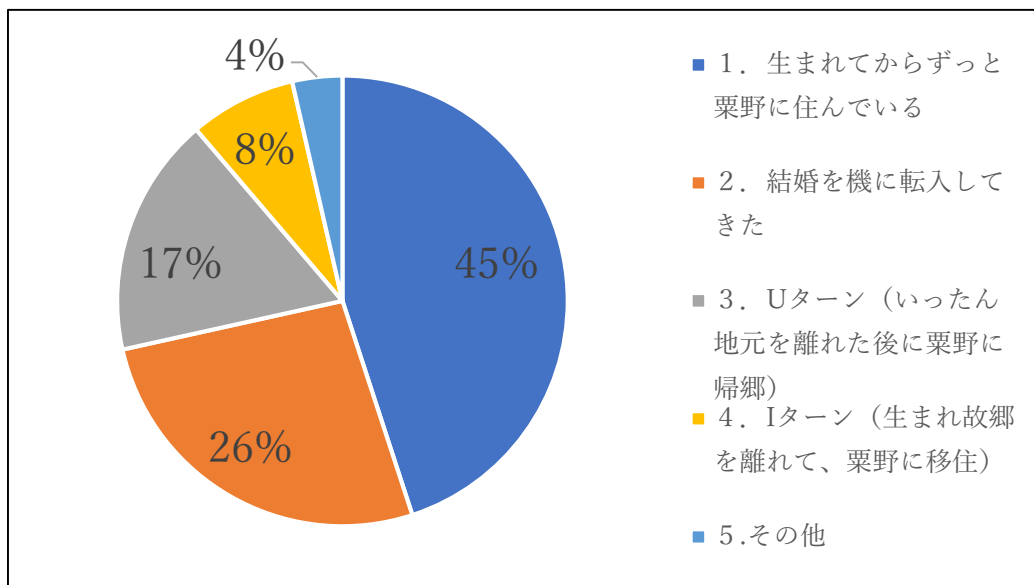
### 1-3 家族構成

全体の58%が二世帯同居と三世帯同居である。



### 1-4 居住歴

生まれてからずっと栗野に住んでいる人の割合が45%と、半数弱を占めている。

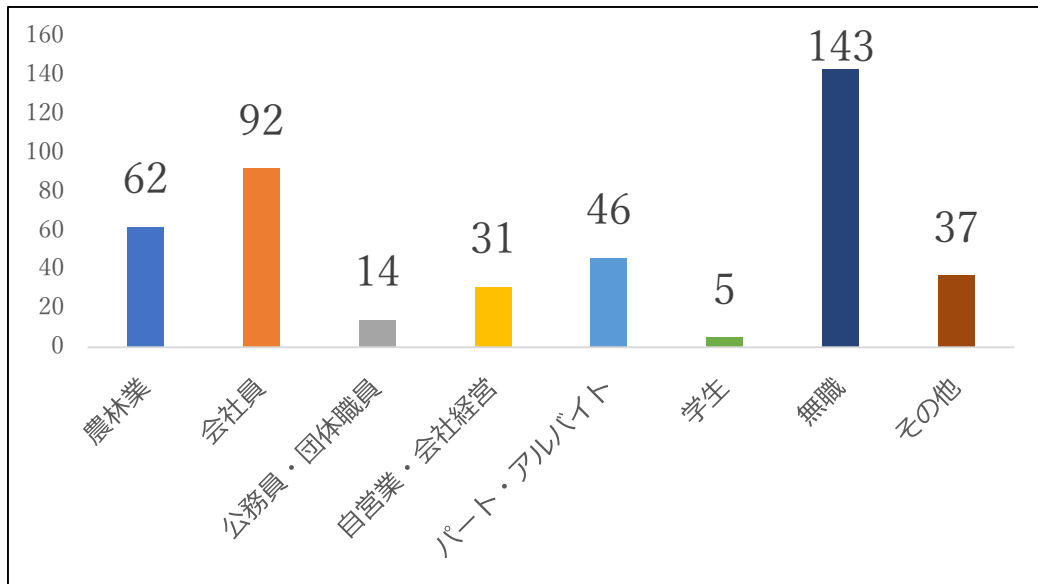




## 1-5 職業

年齢の割合から考察するに、定年退職による無職の方の割合が高い。

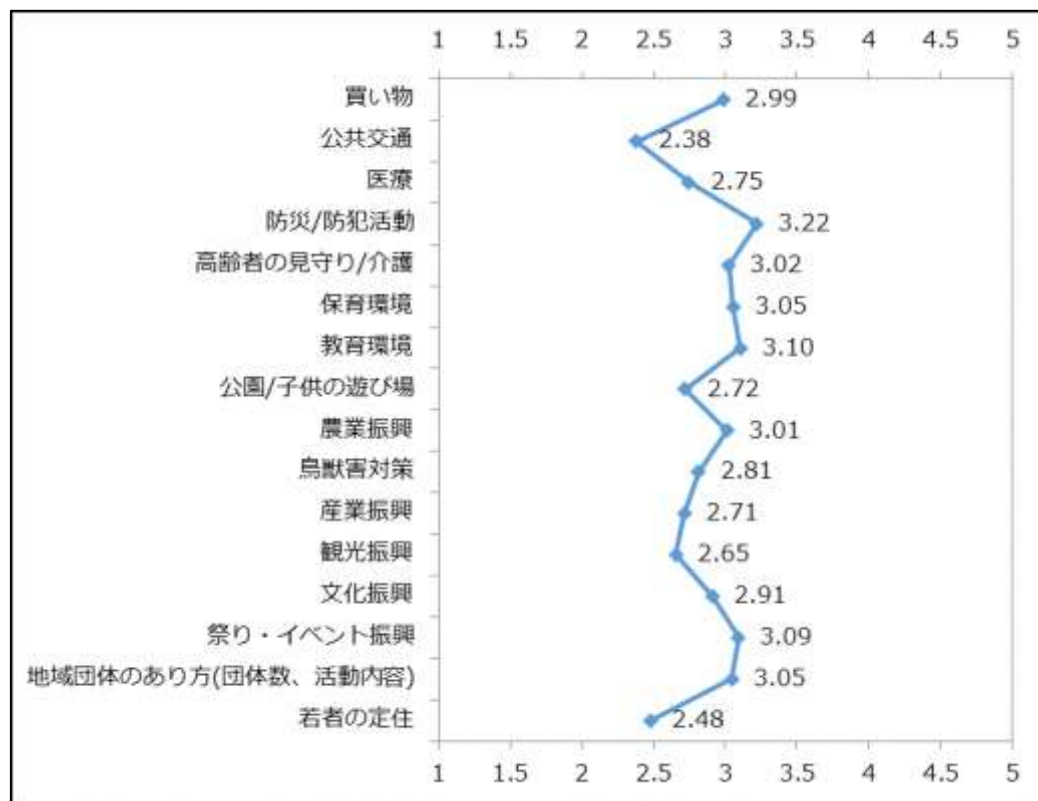
次いで多かった回答は会社員である。



## (2)地域生活の満足度・重要度

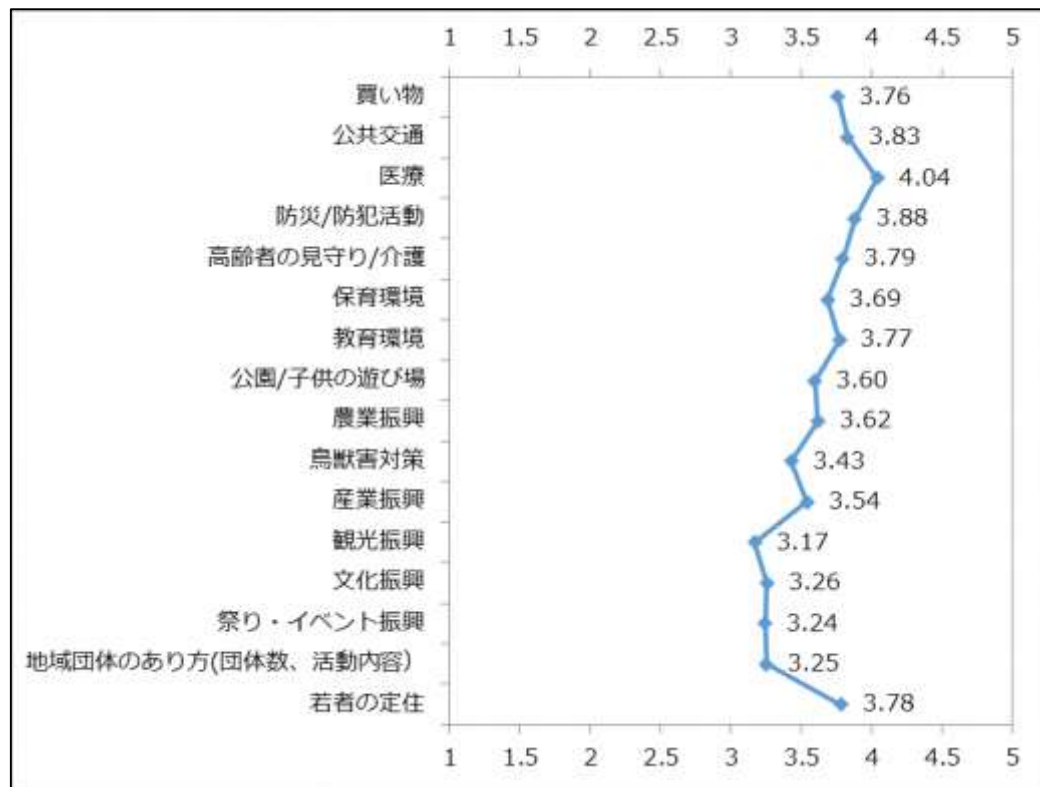
### 2-1 粟野地区に必要な活動についての現在の満足度

満足度は調査した 16 項目の半数以上が 3.0 を下回っている。特に「公共交通」「若者の定住」は 2.5 を下回っており、満足度がほぼ横並びで、満足できる水準に達していない。「防災/防犯活動」「環境育成」「祭り・イベント振興」に対する満足度は総じて高い。



## 2-2 粟野地区に必要な活動についての現在の重要度

「医療」「防災/防犯活動」「公共交通」が総じて高く、生命に直結するサービスの充実が重要であると考える人が多い。

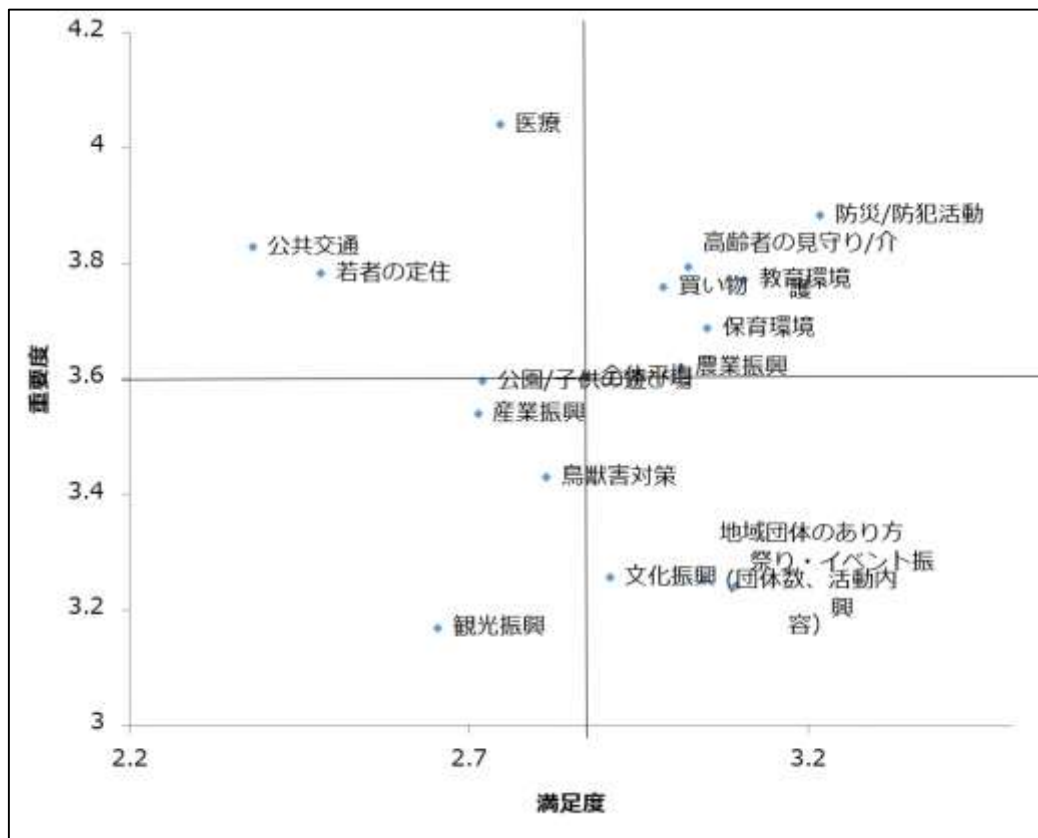


## 2-3 満足度と重要度のクロス分析

左上の項目は、現状は満足できる水準ではないが、重要度が高い項目であり地域として優先して取り組むべき課題、言わば地域にとっての「問題児」的課題といえる。「医療」「公共交通」「若者の定住」の3項目が該当する。

右上の項目は、重要度は高いものの、すでに 相当満足できるサービスが提供されている項目で、「防災/防犯活動」「高齢者の見守り/介護」「教育環境」「農業振興」「買い物」「保育環境」がこれにあたる。現在、地域の「花形」であるこれらサービスの担い手は、現状水準を維持しながらも、カテゴリ 1 の項目に貢献するようなやり方を工夫することが求められる。

左下の項目は、重要度も満足度も相対的に高くない「負け犬」項目であり、事業の計画・実施にあたっては無意識に継続することなく、絶えず効果検証することが必須である。ただし、「宝の持ち腐れ」の面もあるため、やり方次第では大きく伸びる可能性もある。



### (3)安心な暮らし

ここでは10代, 20代, 30代をヤング世代, 40代以降をアダルト・シニア世代としている。

#### 3-1 日々不満に思っていること ~ヤング~

- ・近所付き合いが面倒な時がある
- ・ちょっと散歩ただけで、地域の噂になってしまう、そんな雰囲気がある
- ・常に地域の目を気にして行動制限してしまいがち
- ・祖父が免許を返納したら買い物に行くのに大変になることが予想され心配である
- ・欲しいものがすぐに買いにいけないため、ネットで頼むがそれでも時間がかかる
- ・街頭が少ない
- ・幼稚園の存続
- ・子供の減少、地元小学校の存続
- ・仕事と子育てをしながら、学校関係・地区の行事等が多く負担が大きい
- ・体育祭の役員はやりたくないが、なにかしらやらなくてはいけない、嫌々やるしかない
- ・体育祭は無くしてほしい

子どもについての心配が多いように感じられた。また、その他にもコミュニティの範囲が小さいからこそ発生する問題に対する不満を抱えていることが多い印象を受けた。

#### 3-2 日々不満に思っていること~アダルト・シニア~

- ・車がないと病院や買い物に行くのが困難
- ・公共の交通手段がない
- ・将来的に一人暮らしになったときは、買い物や移動手段がどうなるの

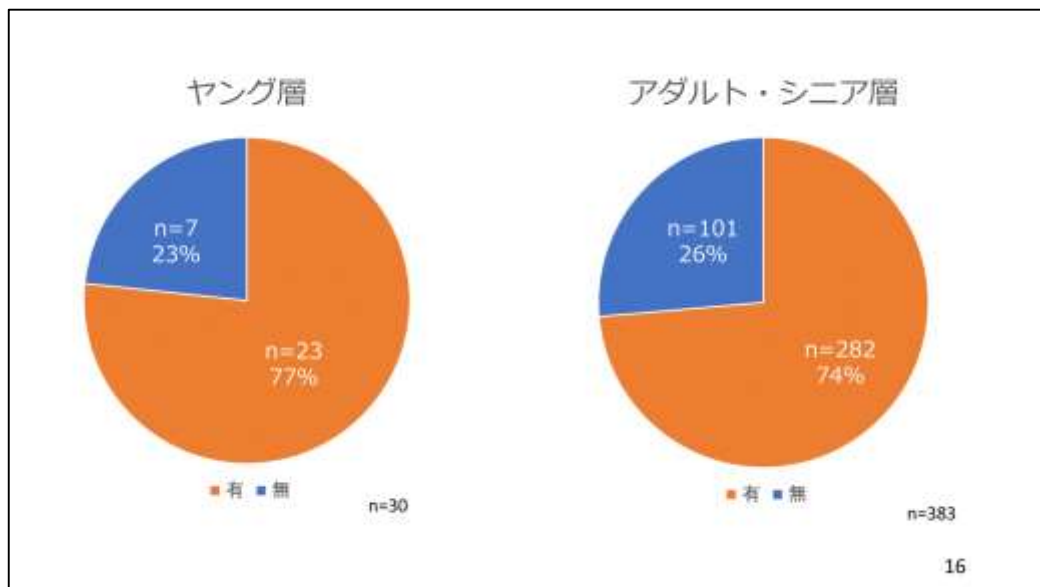
か不安

- ・就業の場が少ない
- ・現在の年齢では全く不便とは思わない
- ・ゴミ焼却バイオマス発電ができたためこれから身体に影響がないか心配

全体的に交通手段に対する悩みがみられ、生活において車が必須であることが想定される一方で、現状の悩みはないと答えている人も多く、現在の環境に変化を求めている人が少ない現状も見えてきた。

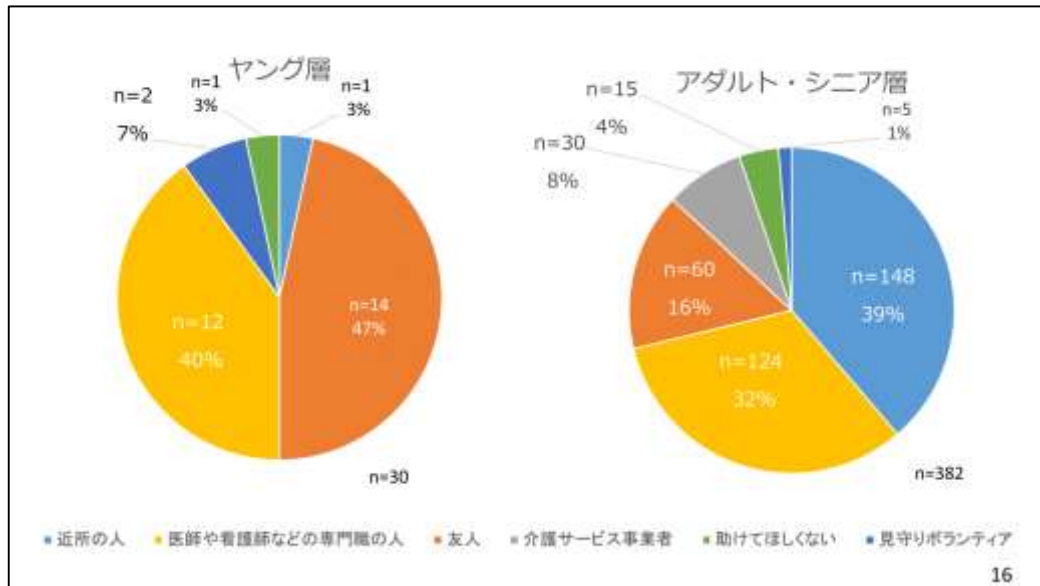
### 3-3 近くに相談できる人の有無

「近くに相談できる人はいない」という回答はヤング層が 23%(n=7), アダルト・シニア層が 26%(n=101)であった。割合としては半数以下であるが、安心な地域での暮らしを目指していくために、改善していく余地がある。



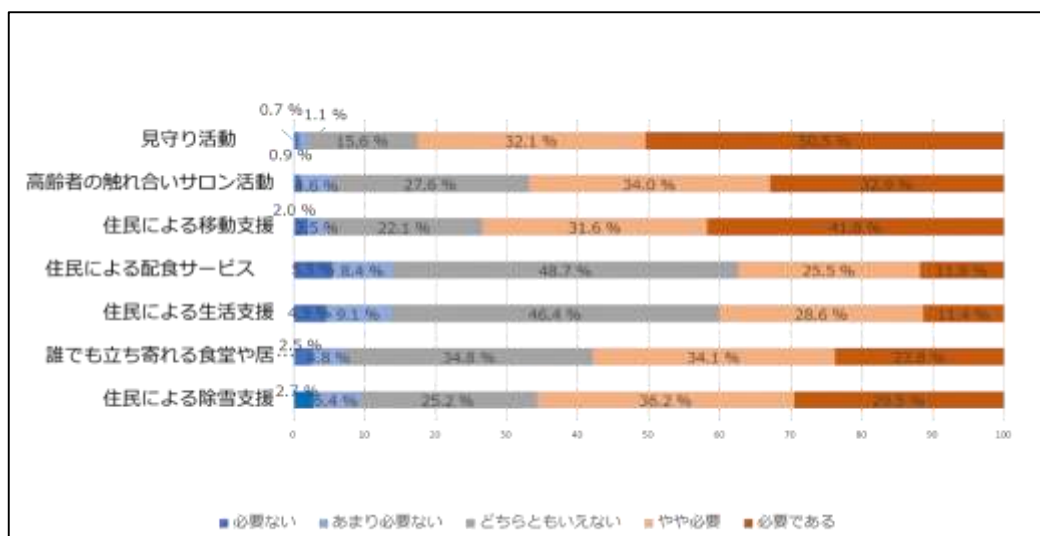
### 3-4 家族以外で助けてもらいたい人

ヤング層では、「友人」が 47%(n=14)と最も多かった。それに対して、アダルト・シニア層では「近所の人」が 39%(n=148)と最も多い結果になった。



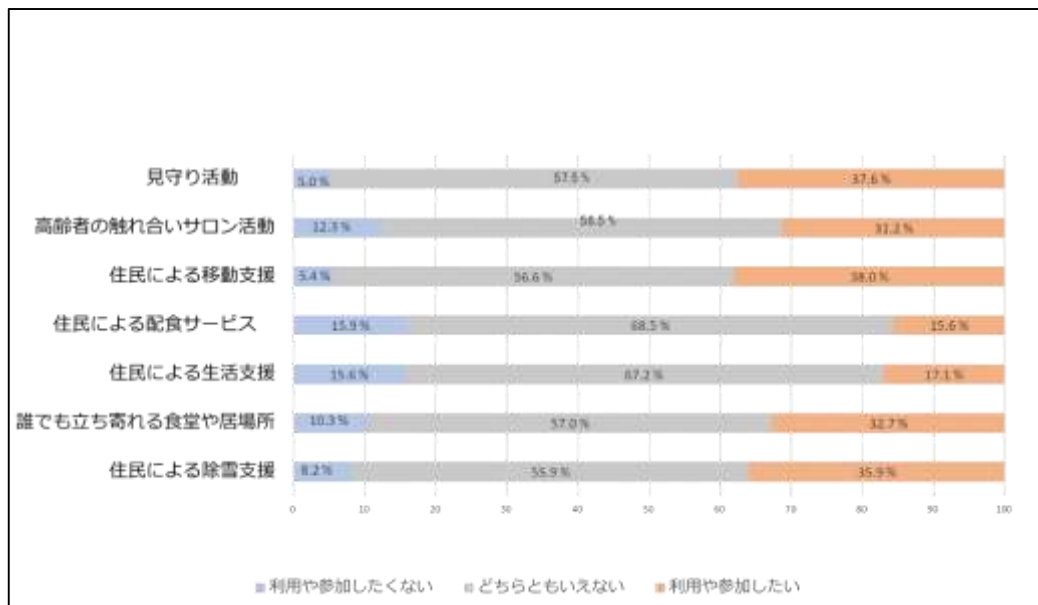
### 3-5 今後必要な支え合い活動

「見守り活動」「高齢者の触れ合いサロン活動」「住民による移動支援」「誰でも立ち寄れる食堂や居場所」「住民による除雪支援」は「やや必要」「必要である」と回答された割合が高かった。



### 3-6 利用・参加したい活動

「見守り活動」「高齢者の触れ合いサロン活動」「住民による移動支援」「誰でも立ち寄れる食堂や居場所」「住民による除雪支援」は「利用や参加したい」と回答された割合が高かった。「今後必要な支え合い活動」で必要と考えられている活動には、「利用や参加をしたい」という回答が多い結果になった。



### 3-7 利用・参加したい活動（具体例）

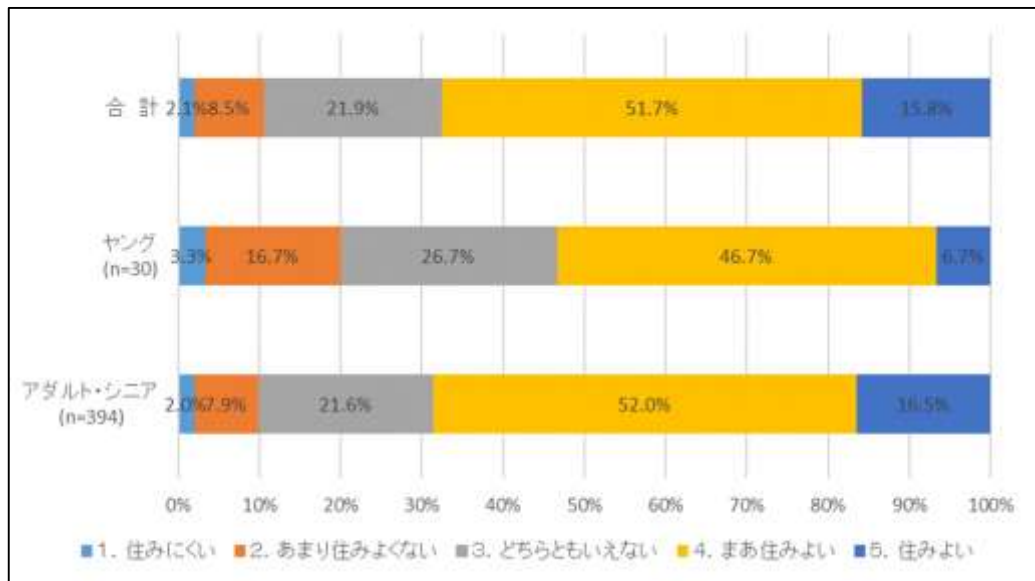
- ・食と農を活かした活動
- ・阿武急をもっと活用したい
- ・空き家の有効活用などの検討
- ・工業団地への会社の誘致で、雇用の増員と宅地の提供
- ・誰もが集まりたくなるような場所を作る
- ・世代別に活動、コミュニティの情報伝達
- ・高齢者社会に対する取り組みを充実してほしい
- ・昔ながらの祭り等



#### (4)地域づくり

##### 4-1 粟野地区における住みやすさ

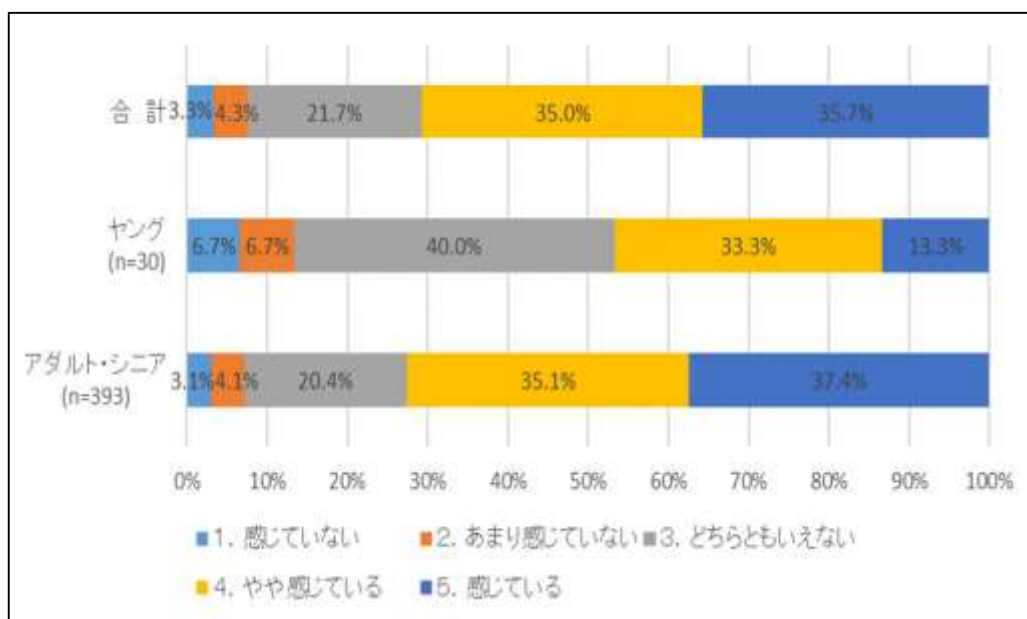
ヤング層では「まあ住みよい」「住みよい」と回答した人は約5割にとどまる。他方、アダルト・シニア層では「まあ住みよい」「住みよい」と答えた人が約7割と多い結果となった。



##### 4-2 粟野地区への愛着

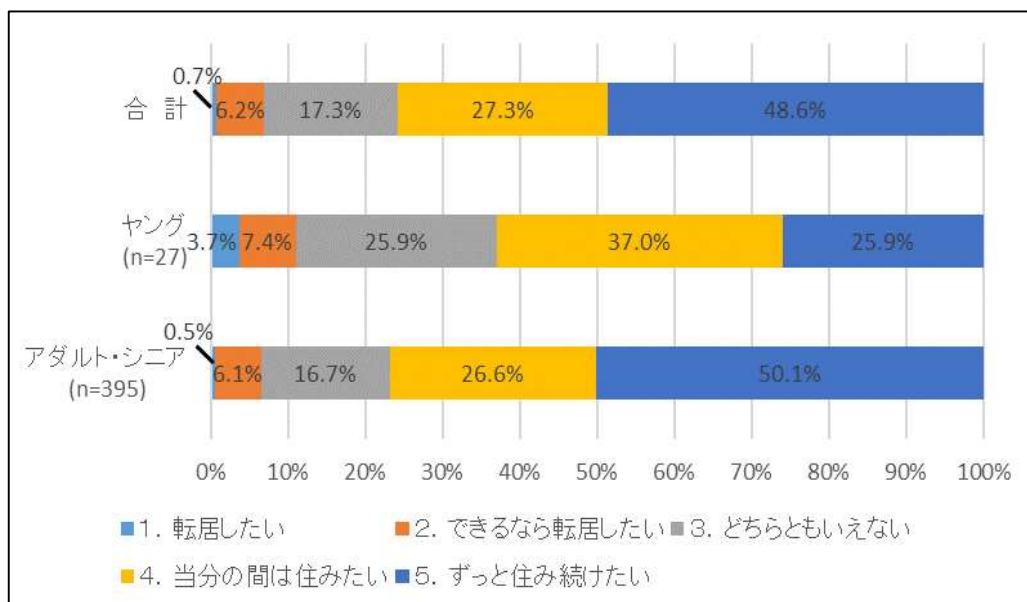
ヤング層では「どちらともいえない」が40.0%であった。この部分の人たちが愛着を感じられるような取り組みを行うことで愛着があると感じる人が85%以上になると考えられる。

アダルト・シニア層では「感じている」「やや感じている」が72.5%と、ヤングと比較すると約25%割合が大きい。



#### 4-3 粟野地区に対する居留意志

ヤング層では「ずっと住み続けたい」「当分の間は住みたい」と答えた人は約6割であった。他方、アダルト・シニア層では「ずっと住み続けたい」「当分の間は住みたい」と答えた人が約8割と多かった。



#### 4-4 気になる地域課題（具体例）

- ・若者の雇用機会が少ないため、若者の移住・定住が進まない
- ・高齢化による人手不足が起きている
- ・街灯が少なく、夜道が暗くて危険
- ・車を運転しなくなった場合、買い物や病院への移動が困難になる
- ・バイオマス発電所による大気汚染や大型車の通行、騒音などの懸念
- ・使用禁止の遊具の放置
- ・阿武隈川の氾濫による水害への対策不足
- ・集まれる場所が地区の端に 1 つしかないため、特に住む高齢者は参加できない
- ・空き家問題

#### 4-5 地域おこしのアイデア

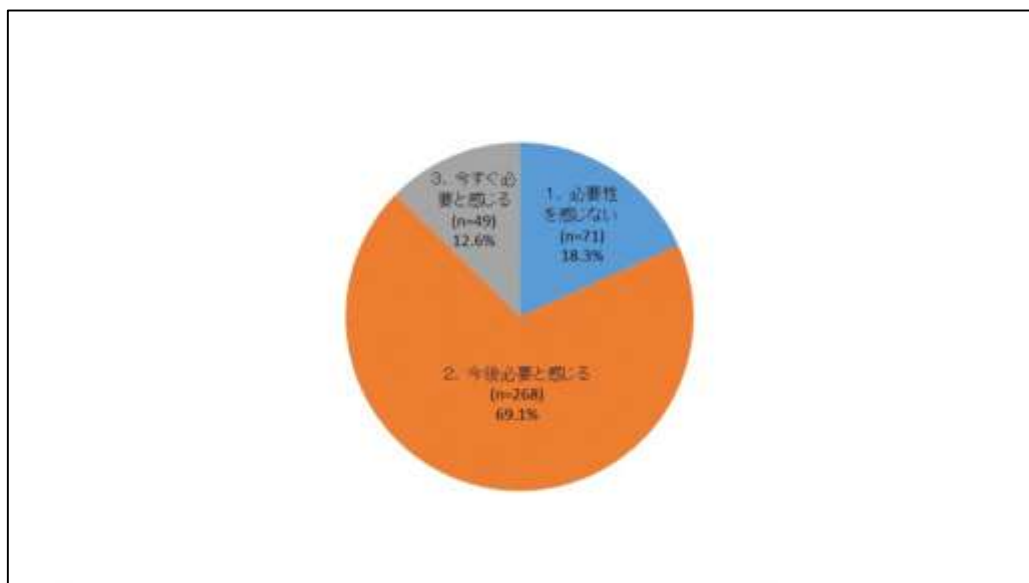
- ・イベントの開催（地域の運動会）、夏祭り、桃の花見、カラオケ大会、駅伝大会、鉄板焼き大会等）
- ・野販売店、マルシェを定期的を開く
- ・自分たちの地域のみこだわらず、ある程度他の地域と統合していく
- ・栗野地区の中心にある「長沼」の環境整備を行い、観光地化する
- ・企業の農業分野への進出を進める
- ・子育て中でも仕事ができるようにする
- ・高齢者福祉、障がい者福祉等の総合的に複合した産業活用により、地域の安心と活性を図る
- ・堤防の嵩上げ等の水害対策
- ・工業団地への会社の誘致と宅地の提供により、雇用の増員を図る

#### 4-6 地域の婚活につながるアイデア

- ・ 青年団の復活
- ・ 若者が気軽に集まれる機会を作る
- ・ 気軽に集まることができるカフェを作る
- ・ 地域の魅力を高める
- ・ 本当に婚活が必要なのか？
- ・ 婚活を意識しないイベントの開催
- ・ 外の地域との交流、協力したイベントの開催

#### 4-7 地域運営組織の必要性

⇒全体の約 8 割が地域運営組織の必要性を感じている。



## 5. 活性化策のシナリオ

粟野地区は、少子高齢化による自治体組織の運営や幼稚園、小学校の存続が危惧される状況にある。誰もが不安なく暮らせる地域づくり、そして持続的な暮らしを目指すために、地区の将来を担う人材の育成が必要であると考えた。そこで若者が関わりを持てる場の創出と関係人口増加に繋がる施策として「粟野地区をフィールドにした体験プログラムの募集とサポート」を提案したい。

これは、粟野地区に暮らす若者、進学や就職を機に粟野地区から地区外に出た若者、粟野地区をフィールドに何かをやってみたい大学生など、粟野地区と何らかの関係のある若者を募り、体験プログラムやそれぞれがやってみたいことを粟野地区を舞台に実施してもらうもので、企画と実施にあたって私たち、宮城大学 伊達ななかまたちが全面的にサポートする。参加対象は10～20代を想定している。

本活性化策によって、参加者に粟野地区で何かを体験したという経験が生まれ、関係人口の増加が期待できる。また粟野地区に関わりがある若者同士が関係性を構築できる場が創出されるとともに、粟野地区の将来を担う若手人材の事業構想力の育成にも繋がるのではないかと考える。

## 6. おわりに

1年目の活動として、参与観察とアンケート、聞き取り調査に取り組んだ。これらから得られた結果と、我々の提案をもって、粟野地区に活性化と持続的な暮らしの一助となればと思う。我々の試験的な取り組みを、地域の住民によって継承していく段階まで引き継ぐことができれば、可能ではないだろうか。

今回の活動にあたり、粟野地区の皆様には、調査へのご協力だけではなく、体育祭や新年会など地域のイベントにご招待いただきました。その中で私たちの活動を暖かく受け入れてくださる皆様の温かさを感じました。誠にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

宮城大学3年 稲葉公成 新森美和子